

みなさんはじょく創という病気についてご存知でしょうか。じょく創とは、いわゆる寝たきりの高齢者に多い皮膚の傷、床ずれのことをいいます。じょく創は、一個所に持続的に圧迫が加わることによってその部分の皮膚の血流が悪くなって、皮膚が死んでしまうことによって起こります。では、どれくらいの時間、圧迫が加わればじょく創になるのでしょうか。答えは寝ている状態では約2時間、座っている状態では約20分です。一旦じょく創ができると、ひどい傷では治療のために手術を必要とすることもあり、治るまでに何カ月もかかる場合があります。できるときはあつという間ですが、治療には根気が必要となります。

現在、鳥取市は人口約20万人に対し、要介護認定をうけている高齢者は6564人(平

成17年2月現在)、このうち、最も介護を必要とする要介護5に認定されている人は800人近くおられ、自宅で介護を受けている人もいます。

実際に行っている予防策としては、じょく創予防のベッドなどの使用があり、これらは介護保険が利用できます。当院でも、じょく創回診を定期的に行い、看護師、医師、栄養士、理学療法士が協力してじょく創の治療、予防について取り組んでいます。将来的には、リスクの高い患者様のご家族へのアドバイスも行っていきたいと考えています。しかし一番の予防はしっかり体を動かして、生き生きとした毎日を過ごすことでしょう。

市立病院
皮膚科医員
内藤 洋子

■問い合わせ先
市立病院総務課 ☎(0857)37-1522

シリーズ vol.2

環境大学

環境政策学科 / 環境デザイン学科 / 情報システム学科
http://www.kankyo-u.ac.jp/
E-mail:nyushi@kankyo-u.ac.jp

■問い合わせ先
入試広報課
☎(0857)38-6720

8月6日(土)・7日(日)
オープンキャンパス開催!!

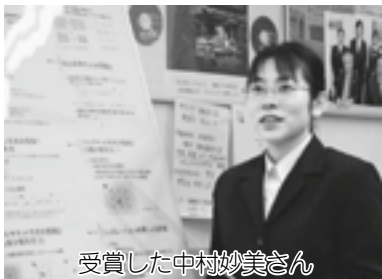
TOICS

トピックス

優秀論文発表賞受賞!

映像・情報メディア学会関西支部において、情報システム学科の中村妙美さんが発表した論文が、優秀論文発表賞に選ばれました。受賞論文のテーマは「画像認識システム」。これは、車の自動運転化を実現するため、画像から情報を認識するシステムで、車に積んだカメラから画像情報を収集し、色や形をコンピュータに学習させ、道路標識を認識させるものです。

しかし、これまでの研究では画像の端や複数のものは、なかなか認識できませんでした。そこで中村さんは、情報捕捉網を4分割する方法を共同で考案。それが評価され、今回の受賞となったものです。



受賞した中村妙美さん

PROJECT

プロジェクト
研究紹介

環境問題や企業・地域社会が抱える問題などについて、チームで取り組むプロジェクト研究。1・2年次は学科の枠を越えた学生6~7人のチームで、3・4年次はそれまで養ってきた知識・経験を生かし、学科別で専門的かつ実践的な研究活動を行います。専門知識を深めることはもちろん、社会で役立つ実践的なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、実行力を養います。

廃材と倒木だけでECO茶室を建築

建築プロセスと身近な素材で、芸術的な空間の創造について体感して学ぶことを目的に、工務店から出された廃材や倒木などを利用し、「茶室」を建築しました。



建築中の茶室

循環型社会に適応した建築のあり方を模索するため、部材は全て再利用できる廃材などを使用。茶室は、その小さい空間の中で無限の広がりや緊張感がみごとにバランスされています。また、大きさも2畳程度と手ごろで、建築とデザインを学ぶには最適。学生たちは



完成した茶室

今までに、実際の建物を造った経験はありませんでしたが、部材を接合する「ほぞ」の部分などの加工に苦労しながら、1・2年生を中心に約6カ月かけ完成させました。